



写真左から  
 石塚凱祥さん 武里団地自治会協議会会長  
 伊藤嘉秀さん 平成25年3月入居(共栄大学)  
 永倉里菜さん 平成27年6月入居(埼玉県立大学)  
 曾根颯太さん 平成27年4月入居(共栄大学)  
 鈴木奈津子さん 平成27年6月入居(埼玉県立大学)  
 山本健吉さん けやき祭り実行委員長



日本工業大学の学生が企画したイベントがきっかけで、団地住民の皆さんが自分たちで運営を始めた「ふれあい喫茶」。週1回の交流の場として「ここに来るとホッとします」「この日が楽しみ」とたくさんの笑顔で包まれ、今でも100人以上が集まる。

## kasukabe PROJECT:06 官学連携団地活性化推進事業

昭和41年に入居が開始された武里団地は最盛期には2万人以上が居住。ところが、最近では1万人を切り、入居者の高齢化も課題となっていた。市では平成23年、包括連携する近隣の大学の学生にルームシェアで住んでもらい、家賃や交通費を補助する代わりに地域貢献活動に取り組んでもらう事業をスタートさせた。自治体として初の試み。

### 官学連携団地活性化推進事業

### 伊藤嘉秀さんたちの幸せスポット

# 若い力で武里団地を盛り上げていきたい

人口の減少と高齢化が課題の武里団地。その活性化のため、近隣の学生たちが暮らし始めた。彼らは戸惑いながらも「役に立ちたい」と日々奮闘している。

「おいしいクレープ、いかがですか〜!」

年に一回の武里団地のお祭り「けやき祭り」の会場に若者の声が響く。官学連携団地活性化推進事業に賛同し、団地に入居している学生たちだ。開始した年は2人だったが、5年目の現在、12人が入居している。今年入居の共栄大学教育学部1年生曾根颯太さんは、「他愛もない話をしているだけなのに、高齢者の方が、『若い人と話をするとうれしい』と喜んでくれる。喜ばれると僕もうれしくて」

もつと喜んでもらえるような企画を自分で考えていきたい、と目を輝かせる。

共栄大学教育学専攻科の伊藤嘉秀さんは、

入居3年目。

「幅広い世代が暮らす団地の生活は教職を目指す自分にとって日々学ぶことばかり」とイベントにも積極的に参加している。

「若い人たちが手を貸してくれて助かる。できれば、卒業後も暮らし続けてほしい」

と武里団地自治会協議会の石塚凱祥会長。伊藤さんはこの思いに応えるように話す。

「武里団地では楽しく過ごさせてもらっている。卒業後も住み続け、学生を増やす活動をするなど、恩返しをしていきたい」

事業が始まって5年。団地活性化の取り組みは着実に実を結びつつある。